

個人投資家向け会社説明会

—Change & Challenge
更なる成長に向けて—

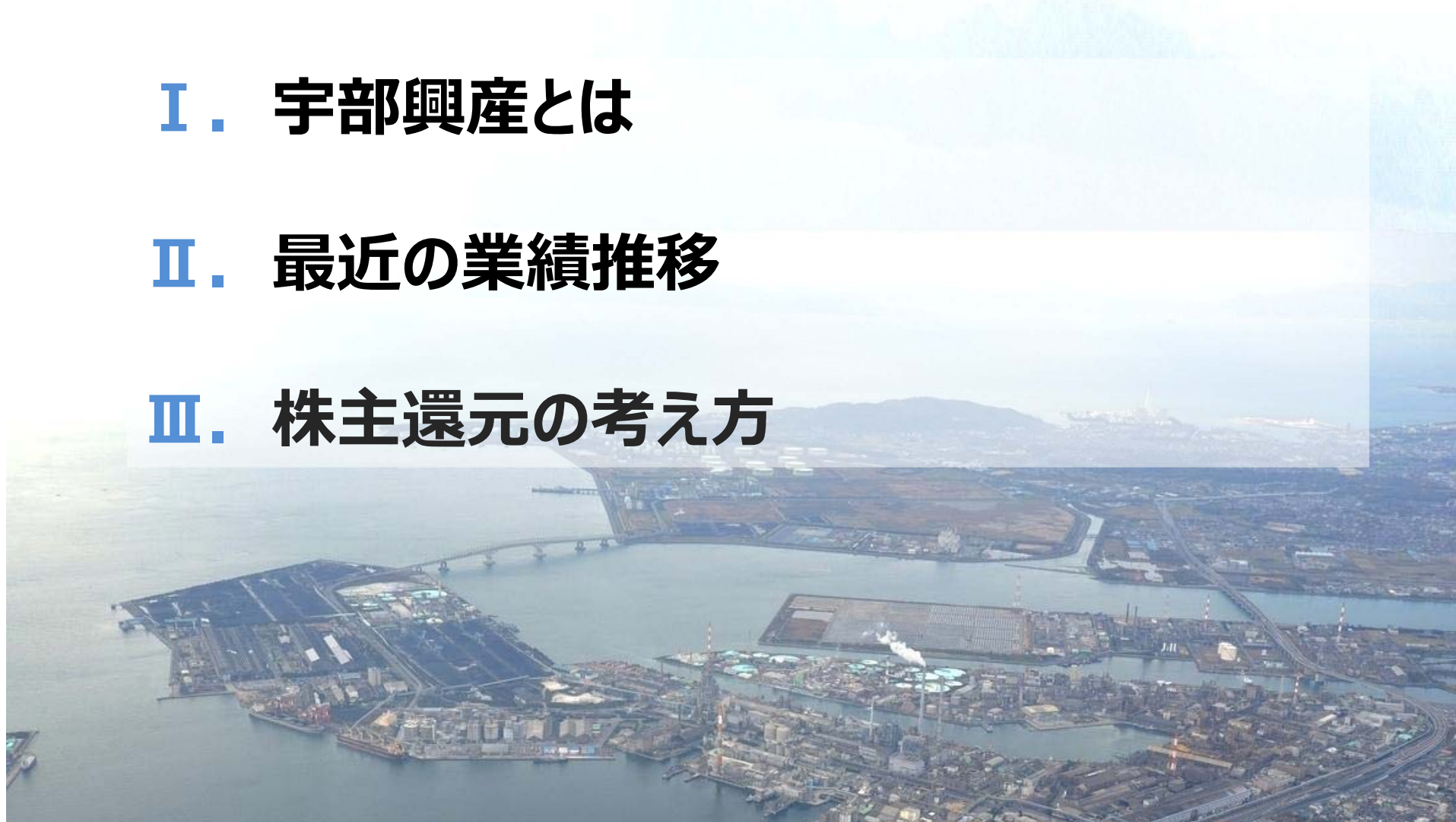
2014年11月

宇部興産株式会社

経営管理室 IR広報部
【証券コード：4208】

説明内容

- I. 宇部興産とは**
- II. 最近の業績推移**
- III. 株主還元の考え方**



I. 宇部興産とは

1. 会社概要

UBE

- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897（明治30）年6月
- ◆設立 1942（昭和17）年3月
- ◆代表者 竹下 道夫



- ◆本社（東京） 東京都港区芝浦
（宇部） 山口県宇部市
- ◆資本金 584億円（2013年度末）
- ◆売上高 6,505億円（2013年度）
- ◆営業利益 244億円（2013年度）
- ◆連結子会社数 65社（2013年度）
- ◆連結従業員数 11,225人（2013年度末）
- ◆上場取引所 東京・福岡（1949年上場）
- ◆単元株式数 1,000株

* 2013年度：2014年3月期

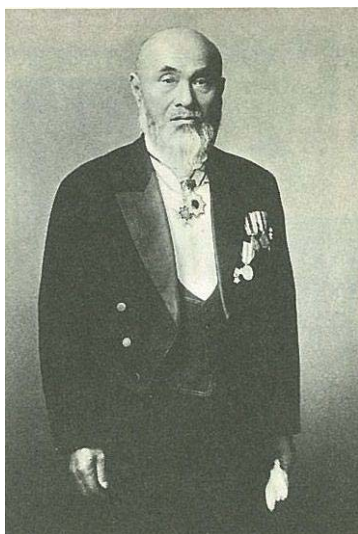
2. グループビジョン

UBE

UBEグループは「**共存同栄**」「**有限の鉱業から無限の工業へ**」という**創業理念**を踏まえ、下記のグループビジョンを掲げています。

技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。

フロンティアスピリットを胸に無限の技術で世界と共生するUBEグループは、次代の価値を創造し続けます。



初代社長 渡辺 祐策

UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

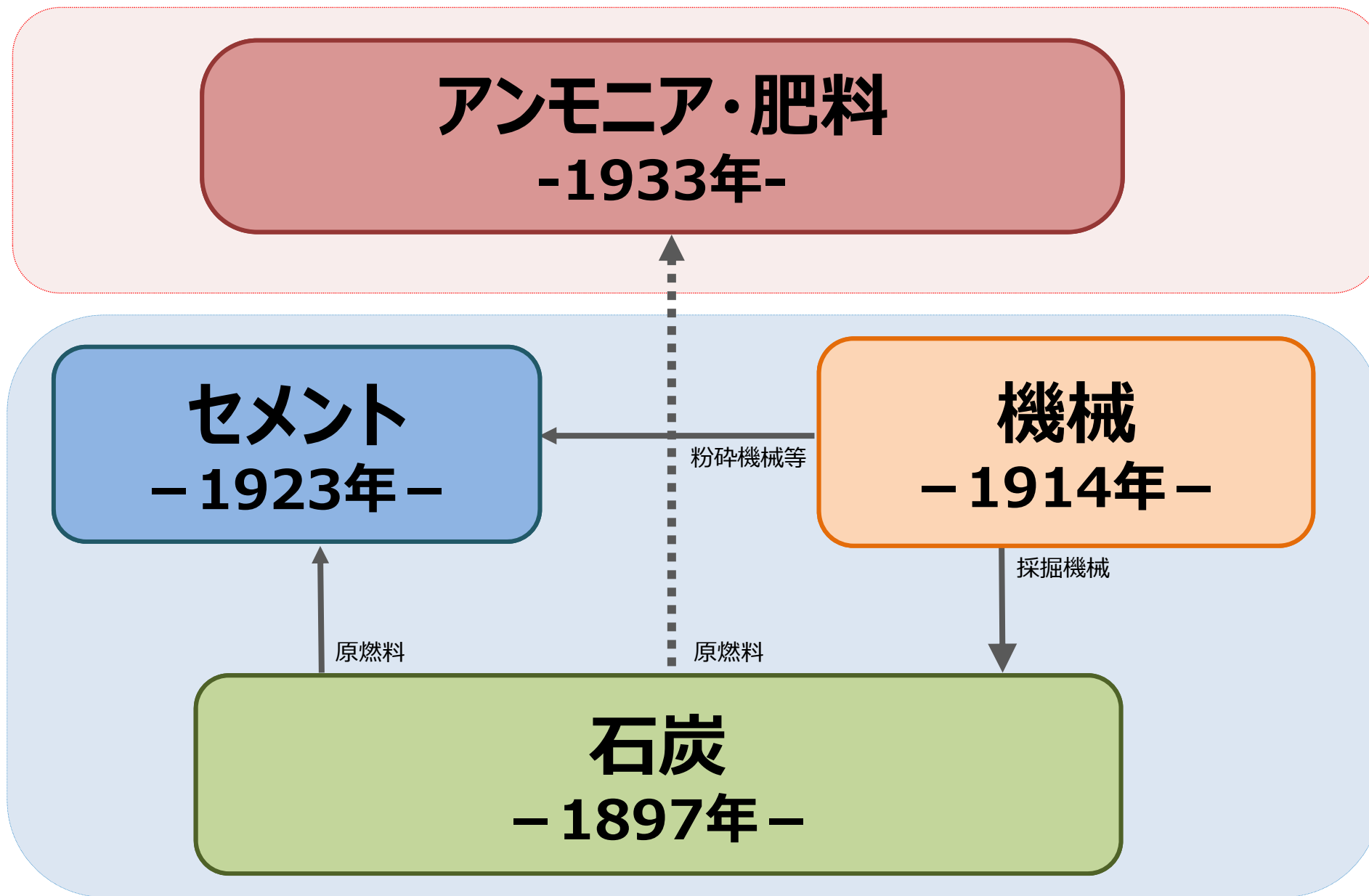
独創的な技術力による「モノづくり」中心の事業活動と、時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。

3. 沿革-事業の歩み

<p>化成品樹脂</p> <p>1933年 宇部窒素工業(株)設立</p>	<p>1955年 カプロラクタム工場稼働</p> <p>1964年 千葉石油化学工場稼働</p> <p>1967年 堺工場稼働</p>	<p>1993年 スペインPQM社に資本参加</p> <p>1997年 タイで操業開始</p>	<p>2004年 宇部丸善ポリエチレン(株)設立</p>	<p>2014年 マレーシア合成ゴム工場稼働</p>
<p>機能品・ファイン</p>	<p>1967年 宇部日東化成(株)設立</p> <p>1982年 ポリイミド製造設備稼働</p>	<p>1994年 電池材料用セパレーター製造設備稼働</p> <p>1998年 電池材料用電解液設備稼働</p>	<p>2003年 宇部日東化成子会社化</p> <p>2004年 機能品・ファインセグメント新設</p>	<p>2013年 中国電解液工場稼働</p>
<p>医薬</p>	<p>1995年 医薬品工場完成 (以降、第4工場まで)</p> <p>2011年 医薬品セグメント新設</p>			
<p>建設資材</p> <p>1923年 宇部セメント製造(株)設立</p>	<p>1955年 伊佐セメント工場稼働</p> <p>1965年 苅田セメント工場稼働</p>	<p>1997年 宇部マテリアルズ(株)設立</p> <p>1998年 宇部三菱セメント(株)設立</p>	<p>2013年 宇部マテリアルズ子会社化</p>	
<p>機械・金属形成</p> <p>1914年 匿名組合 宇部新川鉄工所設立</p>	<p>1999年 宇部興産機械(株)設立</p>			<p>2013年 宇部興産機械とサービス会社 宇部テクノエンジニアが合併</p>
<p>エネルギー・環境</p> <p>1987年 匿名組合 沖の山炭鉱組合設立</p>	<p>1980年 沖の山コールセンター完成</p>		<p>2001年 エネルギー・環境セグメント新設</p> <p>2004年 IPP設備稼働</p>	<p>2014年 メガソーラー発電設備稼働</p>

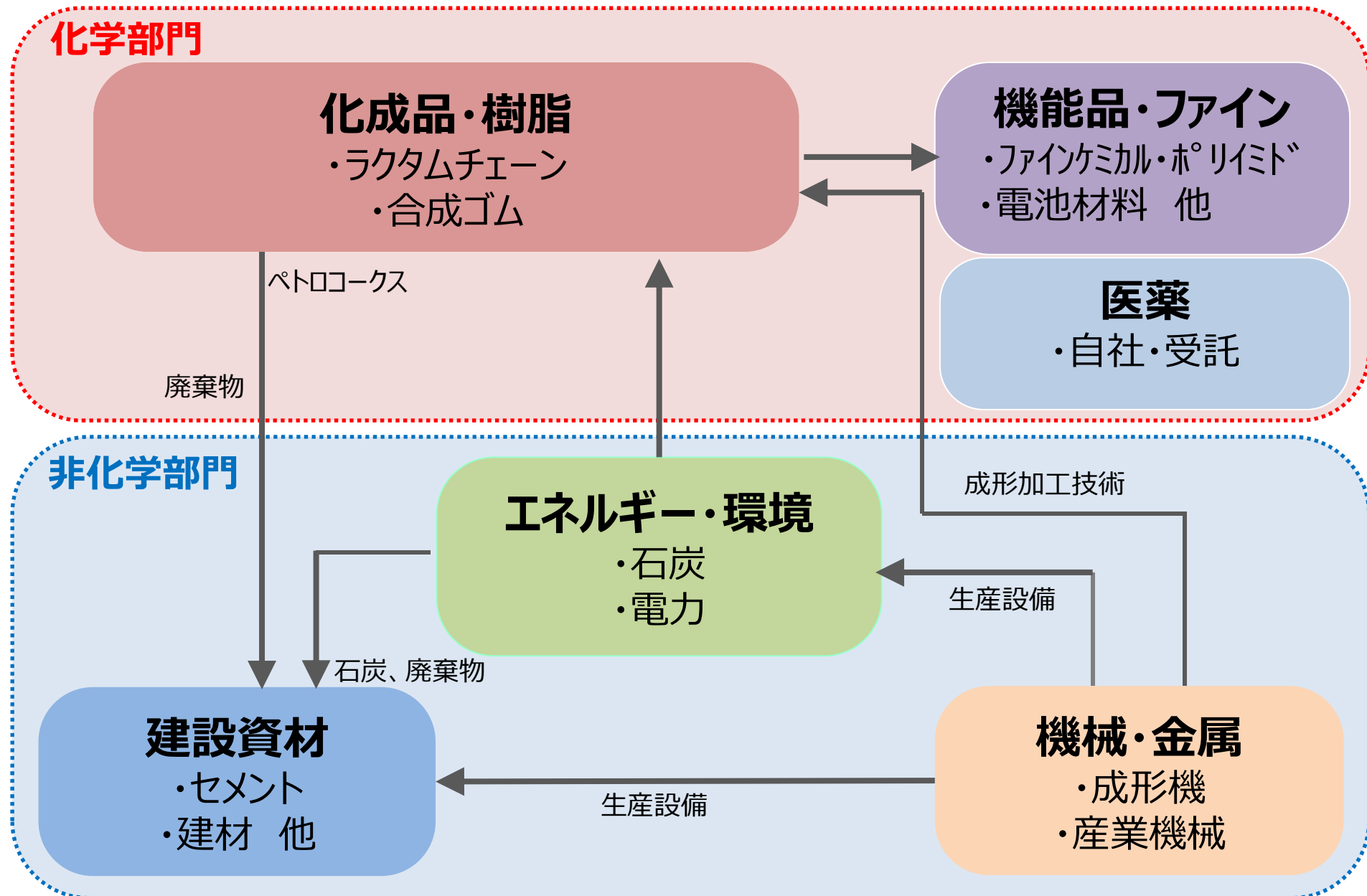
4. UBEのユニークさ(1)

UBE



5. UBEのユニークさ(2)

UBE

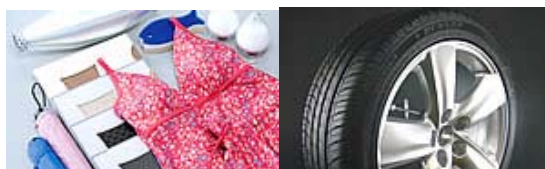


6. 事業概要 (セグメント別売上高シェアと主要製品)

UBE

化成品・樹脂

売上シェア35%
(2,305億円)



- ・合成ゴム
- ・ラクタムチェーン (ラクタム・ナイロン・工業薬品)

機能品・ファイン

売上シェア10%
(631億円)



- ・機能性材料 (ポリイミド・電池材料など)
- ・ファインケミカル

医薬

売上シェア2%
(97億円)



- ・医薬[原体・中間体] (自社医薬／受託医薬)

建設資材

売上シェア34%
(2,235億円)



- ・セメント
- ・資源リサイクル
- ・建材
- ・石灰石
- ・生コン
- ・カルシア、マグネシア など

機械・金属成形

売上シェア12%
(755億円)



- ・成形機 (ダイカストマシン・射出成形機など)
- ・産業機械、橋梁
- ・製鋼品

エネルギー・環境

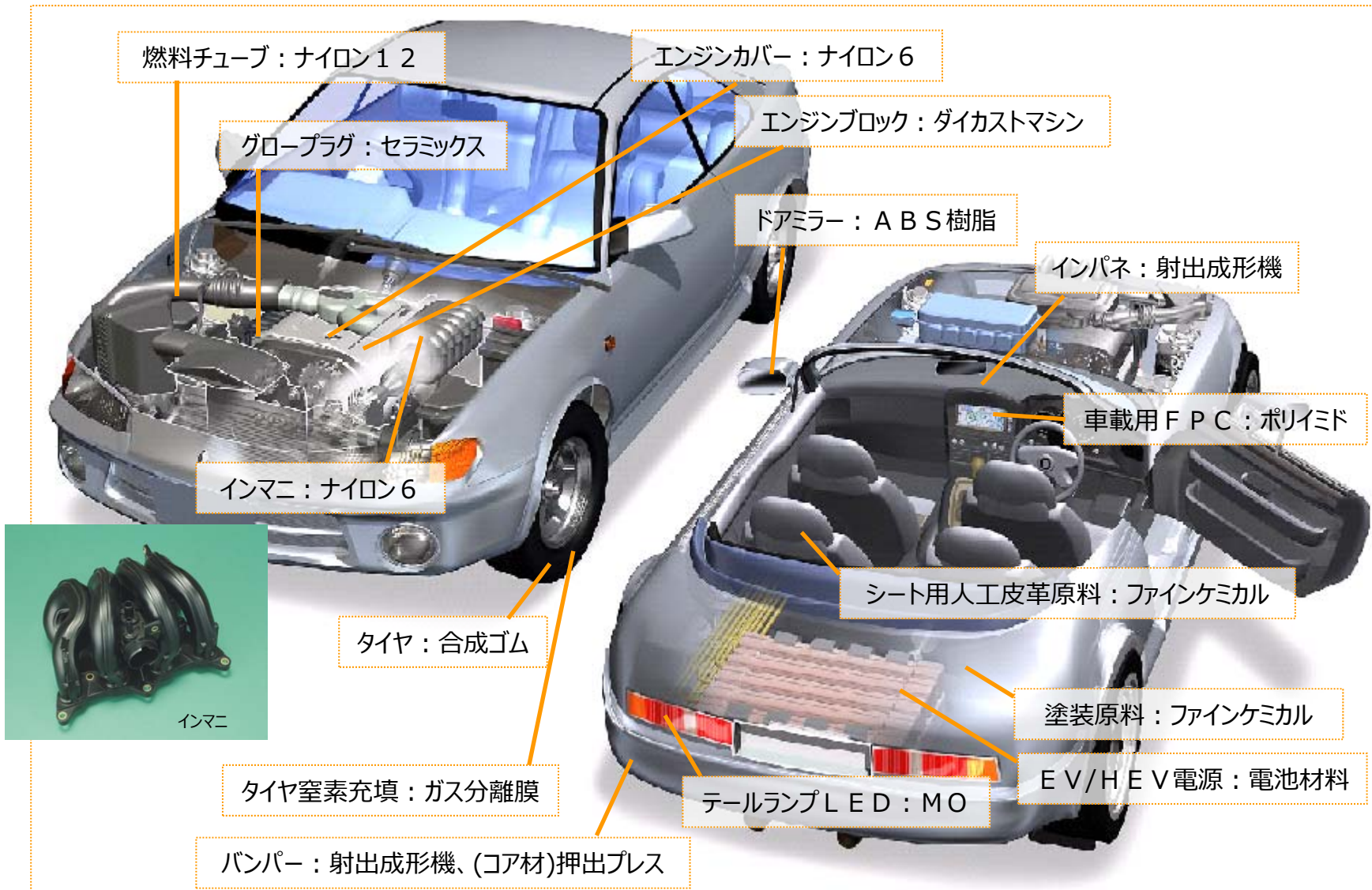
売上シェア9%
(590億円)



- ・石炭 (販売炭／預り炭)
- ・電力 (電力卸供給事業(IPP)／自家発電)

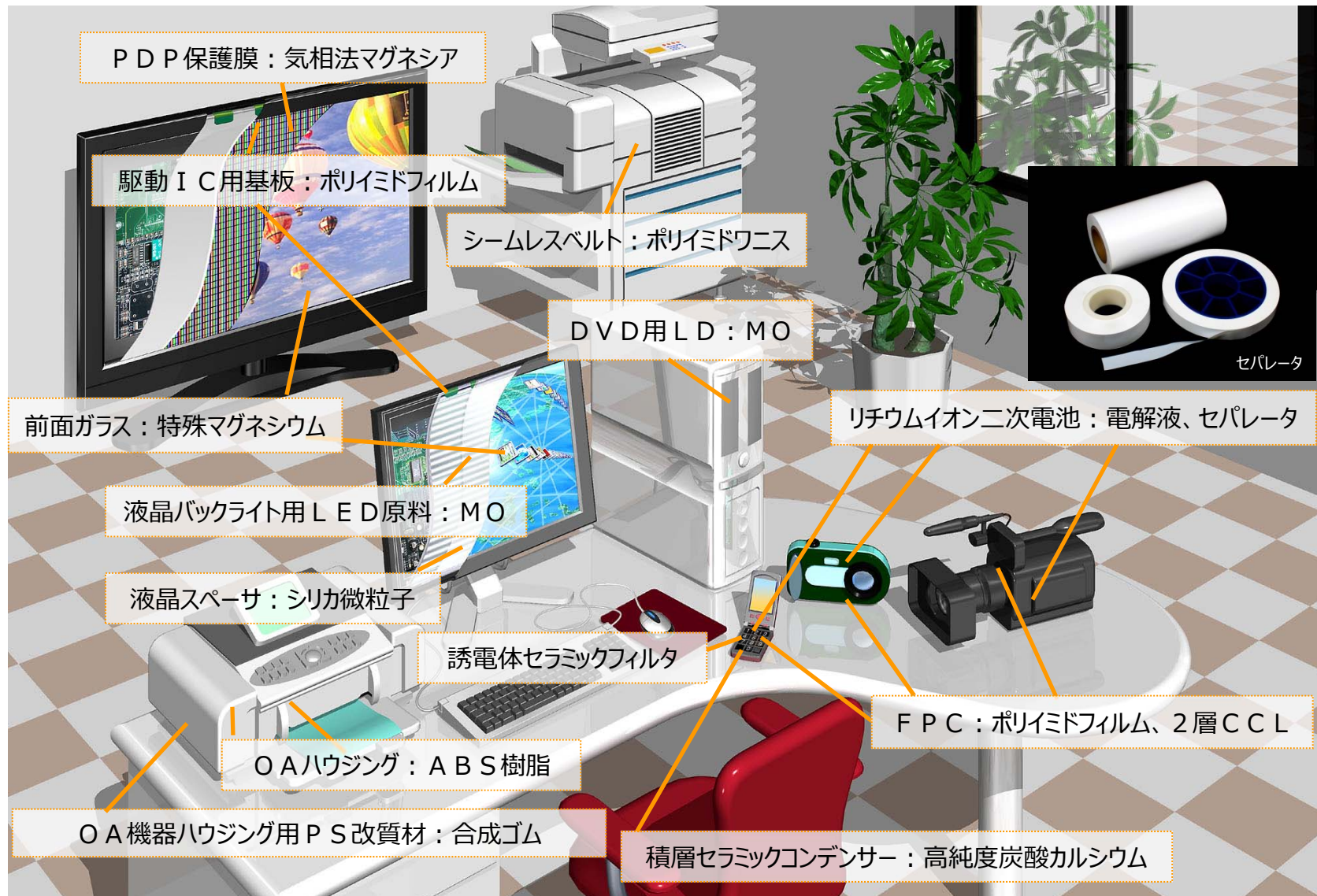
- ・2013年度の連結売上高は6,505億円。
- ・() は2013年度のセグメント別売上高。
- ・その他のセグメントを割愛し、セグメント間の内部売上が消去されていないため、各シェアの合計は100%になっておりません。

7. 身近なUBE製品（自動車）



8. 身近なUBE製品（情報・電子・通信）

UBE



9. 身近なUBE製品 (航空・宇宙、エネルギー・環境、一般産業、インフラ)



10. 身近なUBE製品 (医薬・生活関連)



11. 全国の事業所 (宇部興産・単独)



12. 全世界の拠点

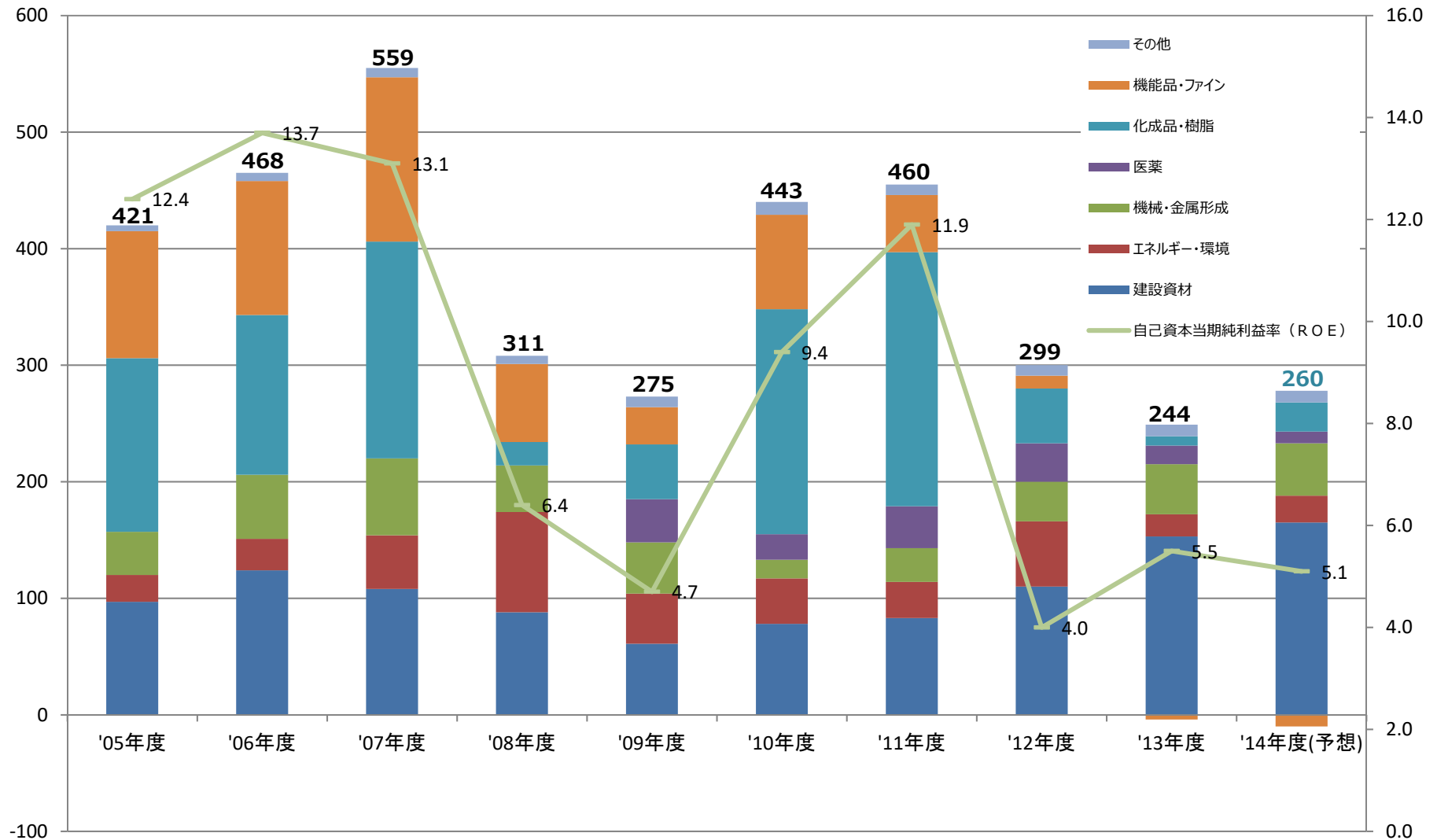


Ⅱ. 最近の業績推移

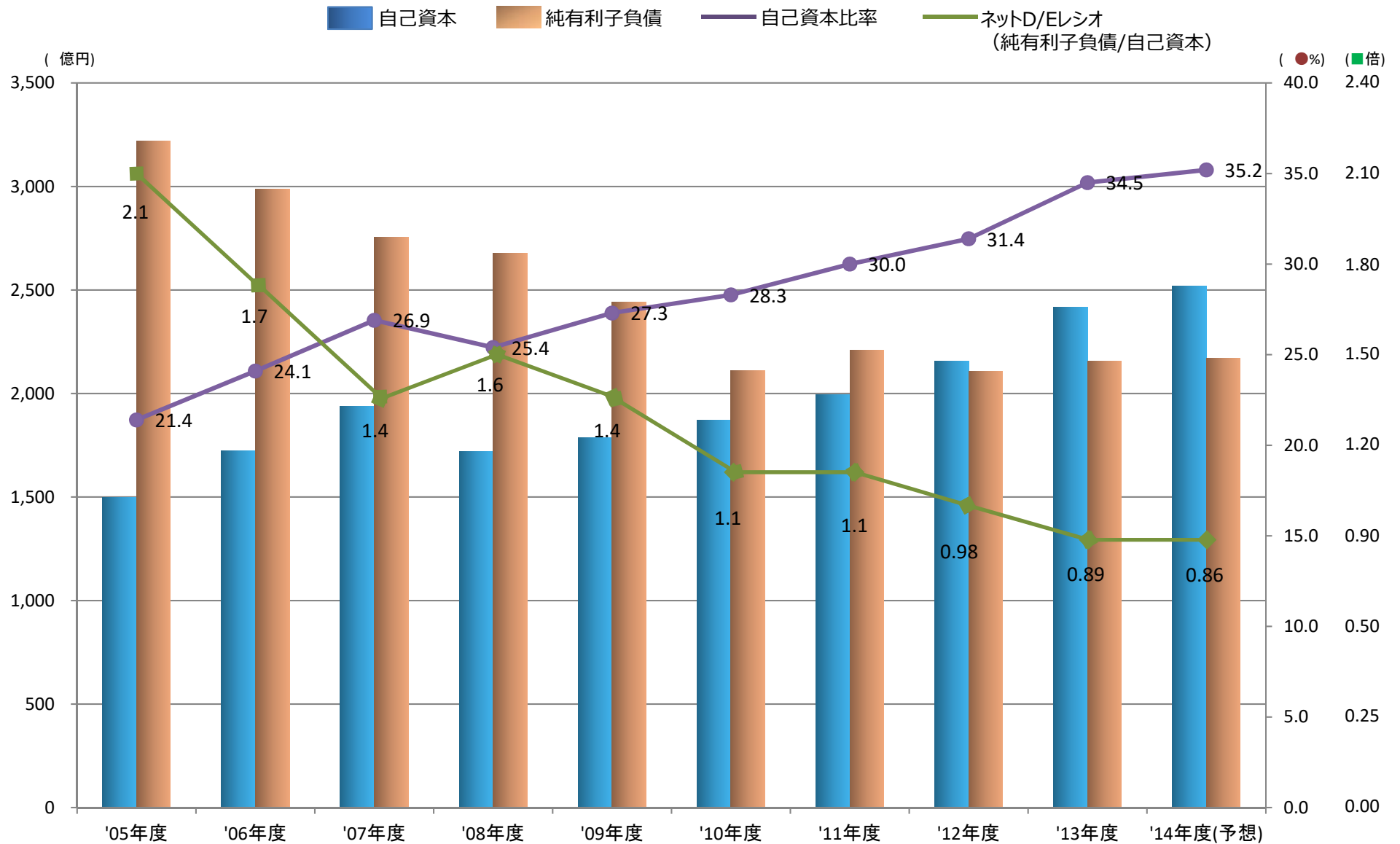
13. 収益力の推移

営業利益 (億円)
(棒グラフ)

利益率 (%)
(折れ線グラフ)



14. 財務体質の推移



15. '14年度業績予想 – 主要項目 –

UBE

(単位：億円)

項目	'13年度	'14年度	差異
売上高	6,505	6,600	95
営業利益	244	260	16
経常利益	186	220	34
当期純利益	126	125	△1
純有利子負債	2,157	2,170	13
自己資本	2,417	2,520	103
配当(円/株)	5.0	5.0	0

16. '14年度業績予想 – 事業部別損益 –

(単位：億円)

事業部	売上高			営業利益		
	'13年度	'14年度	差異	'13年度	'14年度	差異
化成品・樹脂	2,305	2,250	△55	8	25	17
機能品・ファイン	631	665	34	△4	△10	△6
医薬	97	80	△17	16	10	△6
建設資材	2,235	2,260	25	155	165	10
機械・金属成形	755	790	35	44	45	1
エネルギー・環境	590	660	70	19	23	4
その他	288	295	7	10	10	0
調整額	△398	△400	△2	△6	△8	△2
計	6,505	6,600	95	244	260	16

UBEグループのあるべき姿

- 差別化された化学事業を中心に発展
- 多角化で経営環境の変化に対する安定性を確保

化学部門：成長の原動力

非化学部門：安定収益基盤



今後の取り組み

収益改善に向けスピードアップ

基盤強化により
利益のさらなる積み上げ

- 中国での他社大增設による供給過剰でラクタム市況低迷
- ナイロン・合成ゴムは堅調

ラクタム：外販中心から競争力のあるナイロン原料へ

- ① 徹底的なコストダウン
- ② ラクタムの自家消費率アップ



ナイロン：事業拡大のスピードアップ

- ① 押出用途 グローバルNo.1へ能力増強
- ② 射出用途 コンパウンドの強化・拡大
- ③ 委託生産・M&A・アライアンス



合成ゴム（ポリブタジエン）：

大手タイヤメーカーとの協働による差別化・
能力増強で、高機能グローバルNo.1へ



ポリイミドチェーン：電子材料の低価格化とユーザー地図の変化

- ①フィルム：韓台ユーザーへの更なるシェアアップと薄膜化
- ②分離膜：航空機防爆用途など新規需要の取込み



電池材料：車載用途の立上り遅れ・競争激化

- ①電解液：車載用途の強化
- ②セパレーター：乾式製法の強み発揮・塗布での機能強化



ファインケミカル事業：C1技術を核とする事業拡大 (エココーティング事業・ライセンス事業)

医薬事業：ビジネスモデルを発展させ安定的成長軌道へ

- ①自社 パイプラインの充実と既存品のLCM推進
- ②受託 設備・技術力拡充、サプライチェーン強化



建設資材事業

セメント・生コン：堅調な需要環境において収益を最大化
石灰石、カルシア・マグネシア：石灰石チェーンの強みを発揮



石灰石鉱山

機械・金属成形事業

製品とサービスの一体化の効果を追求し、グローバル・ネットワークの最適活用により、成長する海外市場での収益拡大を図る



エネルギー・環境事業

石炭事業：需要増への対応（e.g. 石炭火力発電所）
電力事業：地域へ安定的に電力供給
再生可能エネルギー事業：メガソーラー、バイオマス



- ・'14年度…反転攻勢のスタート年として位置付け
- ・事業環境は引き続き厳しいが着実に手を打ち、
早期に**化学部門の利益を向上させ、UBEグループとして
あるべき収益構造への復活を目指す**
- ・改善された財務体質の下、攻めの投資(含むM&A)も拡大

⇒再び成長軌道へ



Ⅲ.株主還元の考え方

配当方針

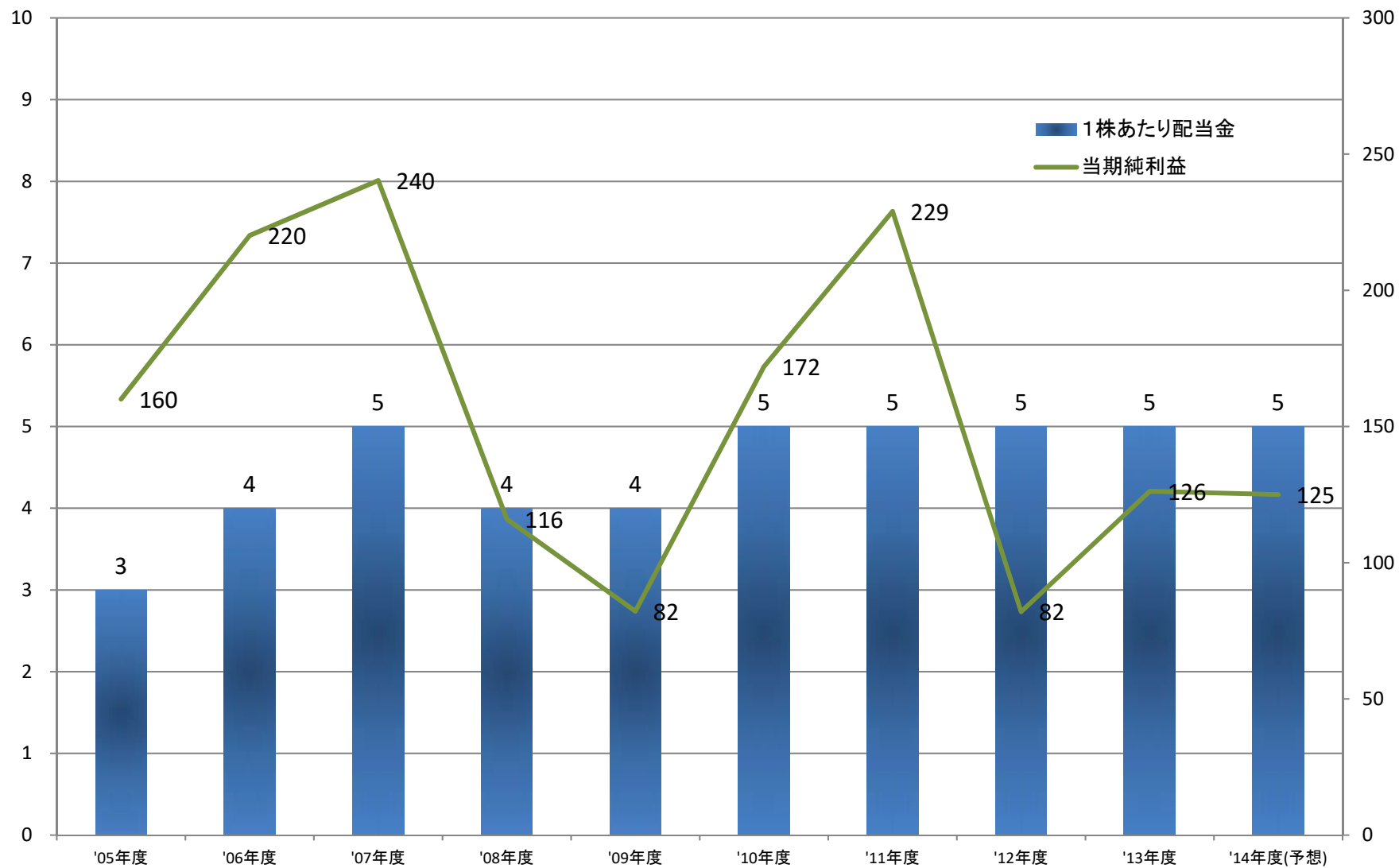
安定配当の意識を堅持し、今後の業績改善によるさらなる向上を目指します。

**配当性向30%以上を目標
かつ
安定配当（'10年～、5円/株を継続中）**

23. 配当の推移

1株あたり配当金(円)

当期純利益 (億円)



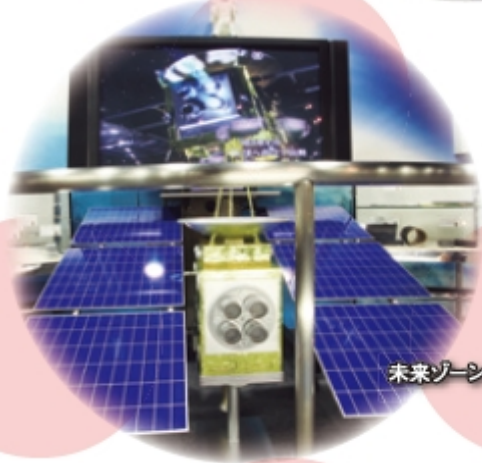
配当性向	'05年度	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度(予想)
	18%	18%	21%	35%	49%	29%	22%	61%	41%	42%

皆様とUBEの出会いの広場
アイ(会・愛)プラザ

化学はみんなの しあわせのために



先端技術紹介ゾーン



未来ゾーン



UBE DOG
ロボくん



製品・技術紹介ゾーン

UBEグループは、たえず社会と産業の変化に対応して自己変革を続けながら、多彩な製品を作り出してきました。モノづくりの力と変化をおそれないチャレンジ精神、すべては人々のしあわせのために…。100年の時を超え、受け継がれてきたDNAは未来への創造力。化学の可能性をi-Plazaで実感してください。

技術の翼
革新の心
Wings of technology
Spirit of Innovation

UBE

UBEグループ総合案内施設（宇部本社1階）

■開館時間：9:00～17:00 ■休館日：土・日、祝日及び会社休業日

■ご利用方法：当施設は予約制になっております。

事前に下記までご連絡ください。

UBE **i** Plaza
Communication & Information Plaza

宇部興産株式会社

〒755-8633 山口県宇部市大字小串1978-96 TEL.(0836)31-2111(見学受付)
<http://www.ube.co.jp>

技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もあり得ますことをご了承承知願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。

ご参考. 株価推移 (2013年4月~2014年10月)

UBE

日経平均



宇部興産

(出所 : Bloomberg)

3. '14年度業績予想・2Q実績 —主要項目—

UBE

(単位：億円)

項目	'13年度		'14年度		差異	
		2Q実績		2Q実績		2Q実績
売上高	6,505	3,108	6,600	3,077	95	△30
営業利益	244	90	260	62	16	△28
経常利益	186	67	220	48	34	△18
当期純利益	126	66	125	0	△1	△66

項目	'13年度	'14年度		差異	
			2Q実績		2Q実績
純有利子負債	2,157	2,170	2,225	13	68
自己資本	2,417	2,520	2,414	103	△2

配当 (円/株)	5.0	5.0	0
----------	-----	-----	---

4. '14年度業績予想・2Q実績－売上高・営業利益－

UBE

(単位：億円)

セグメント	売上高						営業利益					
	'13年度		'14年度		差異		'13年度		'14年度		差異	
		2Q		2Q		2Q		2Q		2Q		2Q
化成品・樹脂	2,305	1,097	2,250	1,022	△55	△75	8	△20	25	△22	17	△1
機能品・ファイン	631	320	665	307	34	△12	△4	4	△10	△11	△6	△16
医薬	97	41	80	35	△17	△5	16	4	10	4	△6	△0
建設資材	2,235	1,069	2,260	1,099	25	30	155	68	165	71	10	3
機械・金属成形	755	348	790	352	35	3	44	23	45	6	1	△17
エネルギー・環境	590	277	660	307	70	29	19	6	23	10	4	4
その他	288	139	295	163	7	24	10	4	10	4	0	△0
調整額*	△398	△185	△400	△211	△2	△25	△6	△0	△8	△1	△2	△0
計	6,505	3,108	6,600	3,077	95	△30	244	90	260	62	16	△28

*セグメント間消去を含む

9. 化成品・樹脂① ラクタム事業戦略

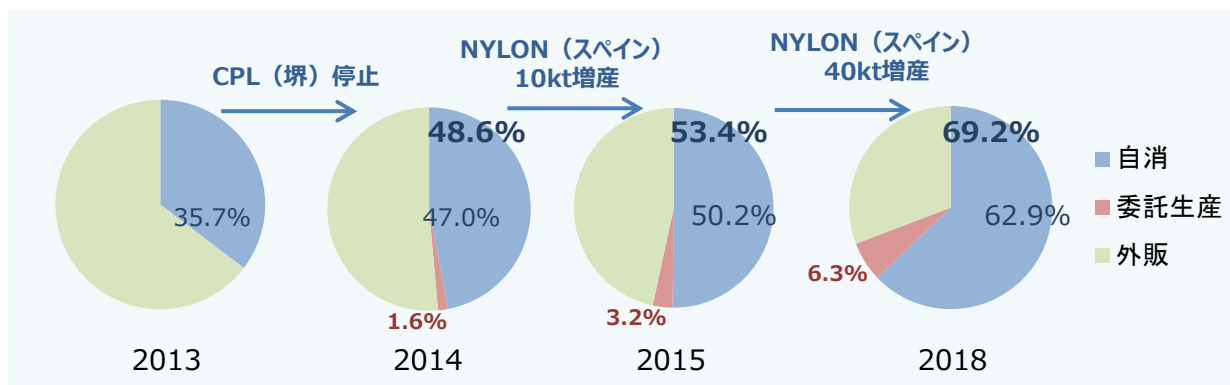
競争力のあるナイロン原料へ

コスト競争力の強化

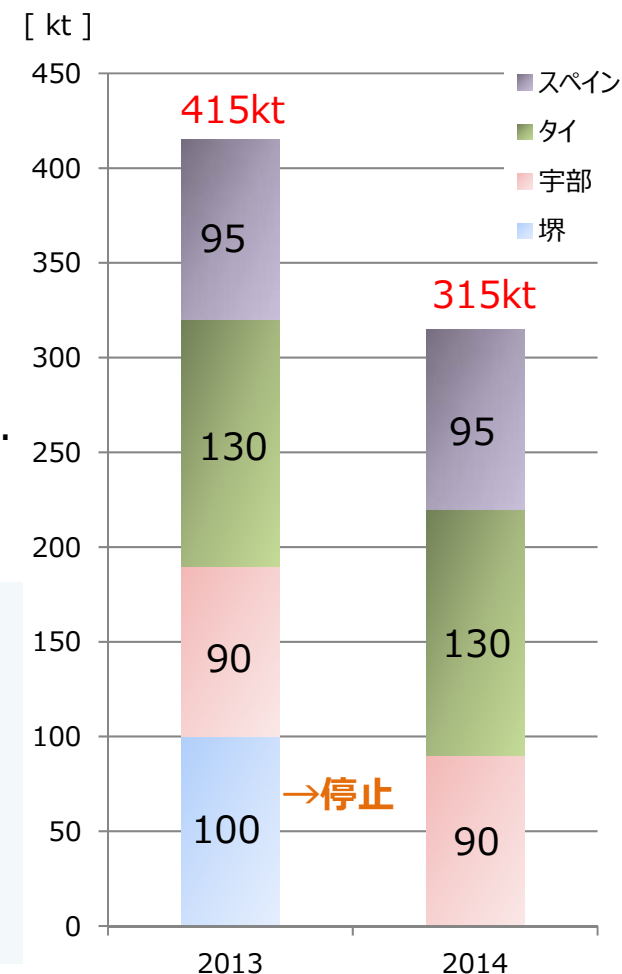
⇒ラクタム事業単独で早期にブレークイーブンへ

- ・堺工場の生産停止
→残存固定費の最小化
- ・徹底的なコストダウン（短期的な施策）
→継続的合理化、収益改善、生産トラブル削減etc.
- ・グローバルなサプライチェーンの強靱化（中長期的な施策）
→アンモニア・アノン等の原材料の競争力強化、硫酸の高付加価値化etc.

ラクタム自消率アップ



ラクタム生産能力



10. 化成品・樹脂② ナイロン事業戦略



ナイロン6事業 拡大戦略

押出用途

グローバルNo.1へ

- ・能力増強 (欧州 14年 10kt 18年 40kt 増強)

射出用途

コンパウンドの強化・拡大

- ・既存 (日本15kt、タイ11kt) に加え、中国、欧州、米国、メキシコでコンパウンド拠点整備
→委託生産、M&A、現地企業とのアライアンス
- ・宇部・スペイン・タイの開発力強化
→グローバル展開加速

委託生産による拡販のスピードアップ

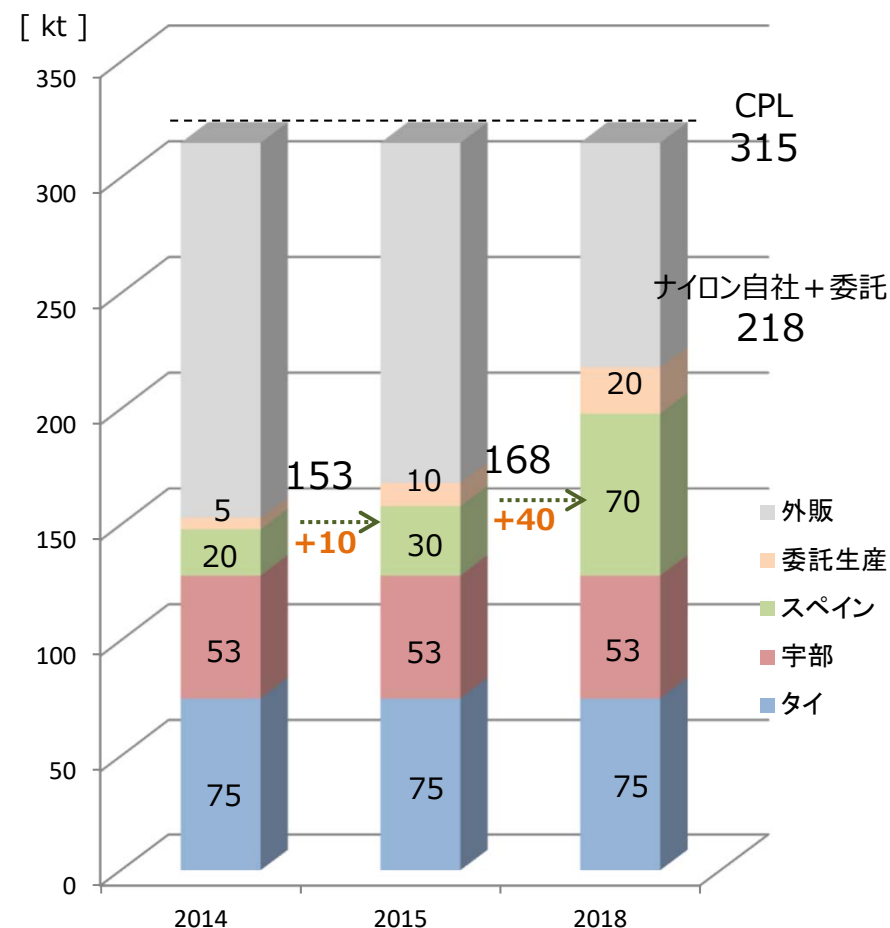
- ・重合及びコンパウンドそれぞれ欧米パートナー3社と委託生産契約交渉中

ナイロン12事業 高付加価値化戦略

環境負荷低減用途拡大

- ・多層チューブ (自動車燃料用・エアブレーキ用)
- ・エラストマー ・食品包装用多層フィルム

CPL及びナイロン6生産能力



11. 化成品・樹脂③ 合成ゴム事業戦略



ハイエンドBRのグローバルNo.1へ

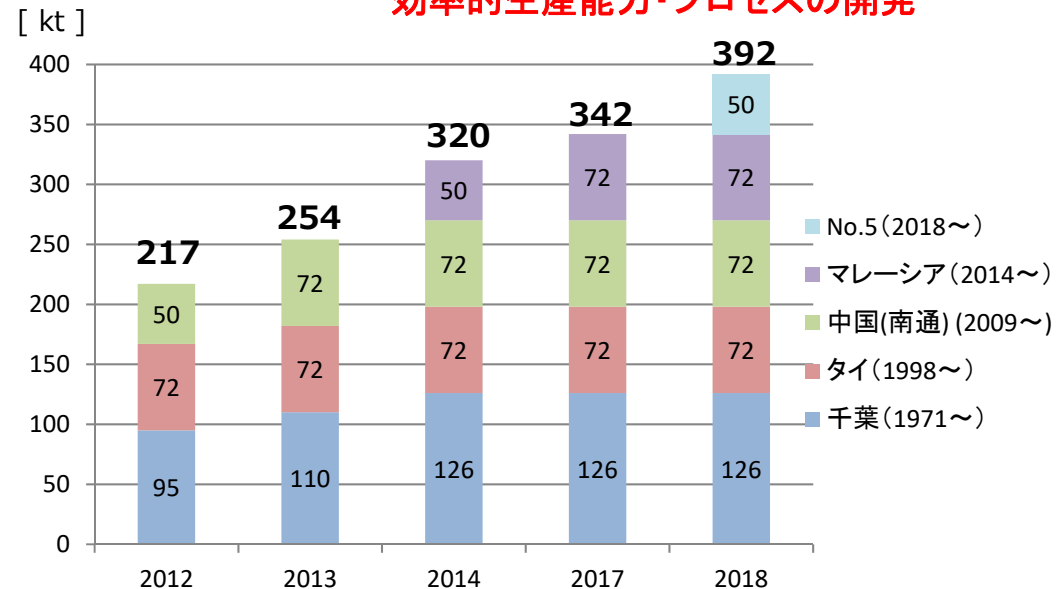
当社BRの特徴

- ・BRの専門店**
 →SBRと棲み分け
- ・原料BDは全工場安定確保済**
- ・大手ユーザーとの共同開発**
 →ユーザーから物性や品質に対する信頼性が高い
- ・差別化の推進とコストダウン**
 →特殊化率73% (VCR/MBR/リア他)
 中国産汎用品との差別化
- ・ユーザーの求めに応じて能力増強**
 - マレーシア工場**
 →2014年11月：商業運転開始予定
 →2017年度中：72kt/年(+22kt)の予定
 - 第5工場建設(計画)前提条件**
 →競争力のある原料BDの確保
 →産業基盤インフラ
 →大手ユーザーの近隣
 ※M&Aの可能性も検討

ゴムの種類	使用比率	特徴	タイヤ部材での適用		
			トレッド	サイド	チェーファア
スチレン ブタジエンゴム (SBR,S-SBR)	19%	◎ 濡れた路面での制動性 ◎ 転がり抵抗軽減 ○ 加工性	◎		
ブタジエンゴム (BR)	14%	◎ 耐摩耗性、反発弾性 ◎ 低温特性、屈曲亀裂性 ○ 引裂き強度	○	◎	◎

合成ゴム生産能力

効率的生産能力・プロセスの開発



12. 機能品・ファイン① ポリイミドチェーン事業戦略

BPDA系ポリイミドの特性（超耐熱性、寸法安定性、耐薬品性、耐久性）を最大限に活用

ポリイミド

既存用途分野：損益安定化の基礎

- 大型液晶パネル向けCOF用フィルム
- 複写機シームレスベルト用ワニス
- FPC（2層CCL用フィルム）：スマートフォン市場は高成長。中国ハイエンド端末を含め採用領域の拡張が急務。（品揃え、海外技術サービスの強化）
- コストダウン、生産性改善による競争力強化

新規市場・用途分野：収益力強化に必要な新たな柱

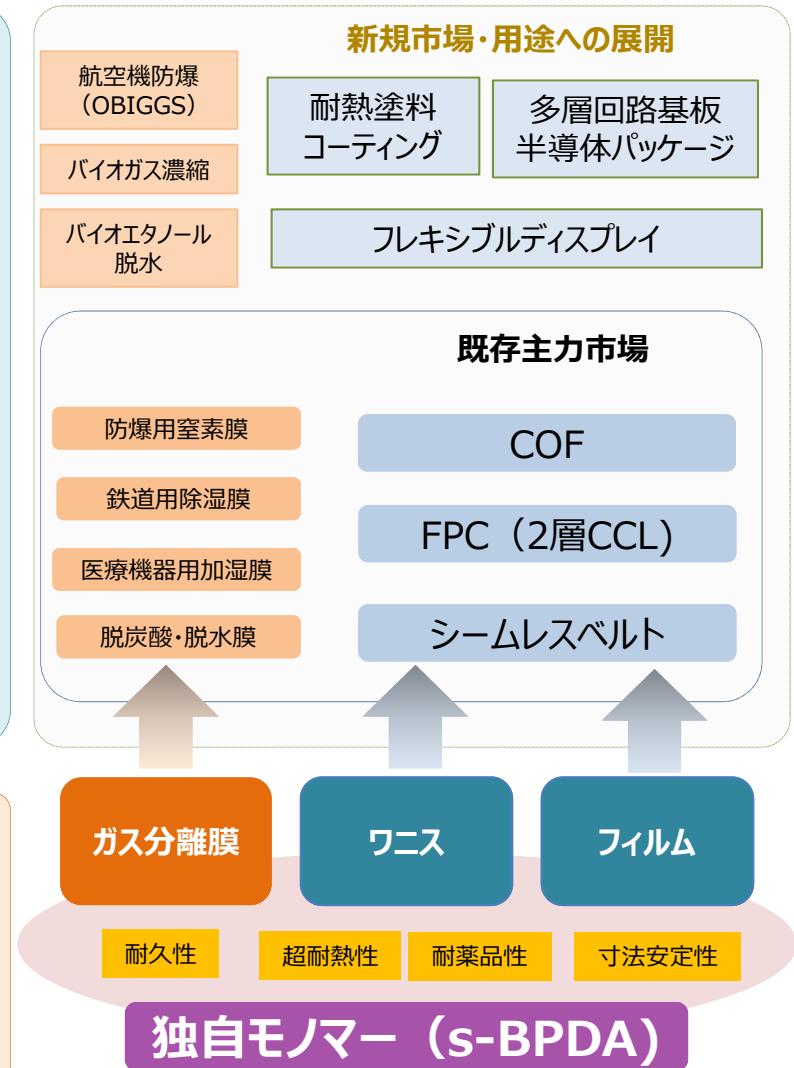
※デバイスの高機能化、要求性能の高度化に伴い、ポリイミドへの材料転換、採用の動きは着実に進展中

- フレキシブルディスプレイ（ワニス、フィルム）
- 半導体パッケージ（フィルム）
- 耐熱塗料・コーティング（ワニス）

ガス分離膜

堅調な環境・エネルギー分野の市場深耕

- 北米油井、シェールガス、中国炭鉱向け防爆用窒素膜需要増加。（海外販促強化、モジュール機能アップ）
- 鉄道車両用除湿膜、医療機器用加湿膜需要も好調
- 新規用途：航空機防爆（OBIGGS）等への展開促進



13. 機能品・ファイン② 電池材料事業戦略

UBE

競争激化する市場に技術力・提案力で挑む

市場環境

- ・車載LIB需要の立上り遅れ
- ・電池材料は供給能力過剰に
- ・価格競争が激化
- ・電池材料への性能、品質要求は高度化



AETZ中国(張家港)
電解液工場写真

セパレーター

- ・乾式製法で車載用途のスタンダード獲得済み
- ・高度化する品質要求を先取り対応中
- ・塗布による機能付与で拡販推進
(車載用途で'14~15年に量産立上)
- ・タイムリーな生産能力の増強実施
- ・生産性の向上(コストダウン)の徹底追求

電解液

- ・民生用途：スマホ用途でのシェア拡大余地有
- ・車載用途：競合に対する市場展開の遅れ
※車載での巻き返しが中長期での重要課題
- ・卓越した添加剤の開発力とフォーミュレーション提案力により、競合を凌駕する機能実現を図る
- ・中国工場の本格稼働によるグローバル供給体制始動
- ・主要溶媒を自製する強みを活かす

技術開発に経営資源を重点投入

14. 機能品・ファイン③ ファインケミカル事業戦略

C1技術を核とする事業拡大

UBE

ケミカルから高付加価値ダウンストリーム志向への展開促進。“マテリアルビジネスからソリューションビジネスへ”

ECOコーティング

PCD

- 世界シェアNo.1
- 増設投資（タイ）の前倒し

高級
ポリウレタン
原料

PUD

- 環境対応型の水系コーティング材
- 顧客のニーズや問題点にソリューション提案

自動車
外装塗料

自動車
内装材

内装用
建材

合成皮革
人工皮革

スライドリングマテリアル（SRM）

- PCDとの組合せで新規エラストマー開発

高性能
塗料・樹脂

環境に優しい
コーティング材を
新たな事業の柱に



“C1ケミカルチェーン”
UBE独自技術の
強みを発揮

C1技術ライセンス

DMO△MEG

- 成長持続するポリエステル原料（MEG）をCOから製造する画期的なプロセスソリューション
- ※2010年以降、中国向け7件を成約

DMC

- 電解液溶剤展開のためライセンスを活用
- 将来的には燃料添加用途なども期待

LiB電解液溶剤

高純度DMC/DEC/MEC

- 当社電解液事業の競争力の源泉
- 外販も（世界各地の電解液メーカーに供給）
- 中国での現地生産（ライセンス・合弁）も検討

<医薬事業の戦略>

ビジネスモデルを発展させ、基盤作りと成果刈取りにより安定的成長軌道に乗せる

- 自社医薬：パイプラインの充実と早期導出、並びに既存品のLCM（ライフサイクルマネジメント）推進
- 受託医薬：設備・技術力拡充（極低温反応・高薬理活性）、サプライチェーン強化等による事業拡大
- 海外生産拠点の構築／ジェネリック原体の製造／プロセス開発受託によるビジネスモデル発展

◆ 自社医薬品の共同開発状況

商品名（開発コード）	適応症	現状（上市地域）	今後の展開
トリオン 一般名：ペボタスチンベシル酸塩 販売：田辺三菱製薬(株)	抗アレルギー剤 ● アレルギー性鼻炎 ● 蕁麻疹 ● 皮膚疾患に伴うそう痒 ● アレルギー性結膜炎	トリオン錠（日本・韓国・中国・インドネシア） トリオンOD錠（日本） 点眼薬（米国、韓国）	● さらなるライフサイクルマネジメント（適応症・製剤追加、新興国市場への地域拡大等）を図る ● 国内 小児・鼻炎及びアトピー：承認申請中
カルブロック 一般名：アゼルニジピン 販売：第一三共(株)	血圧降下剤 ● 高血圧症	カルブロック錠（日本） レザルタス配合錠（日本）	● 第一三共(株)オルメサルタン・カルブロックファミリーとして販売促進
エフィエント 一般名：プラスゲレル 販売：第一三共(株)、 米国・イーライリリー社	抗血小板剤 ● 心筋梗塞、脳梗塞など	エフィエント錠 ・米国・欧州・ほか70数カ国 ・ 日本：14年5月販売開始	● グローバルな国・地域への販売拡大 ● 国内 脳領域：第3相進行中 ● 米国 小児適用：第3相進行中
(DE-117) パートナー：参天製薬(株)	緑内障治療薬 ● 緑内障、高眼圧症	米国：第2相	● グローバル展開を図る

◆ 受託医薬品の状況

営業品	原体／糖尿病薬、高尿酸血症薬、降圧薬等 中間体／抗血栓薬、脂質異常症治療薬、抗凝固薬、糖尿病薬等
開発品	抗癌剤、糖尿病薬、高血圧薬等の原体・中間体

国内外製薬会社からの受注案件が順次上市

16. 建設資材

■セメント・生コン：堅調な需要環境において収益を最大化

震災復興需要
防災・減災
インフラ老朽化

国内需要は
中期的に堅調に推移

- ・内需（セメント・固化材）の確実な取込み
- ・高度な廃棄物リサイクルの拡充
- ・セメント・生コンの適正価格の確保

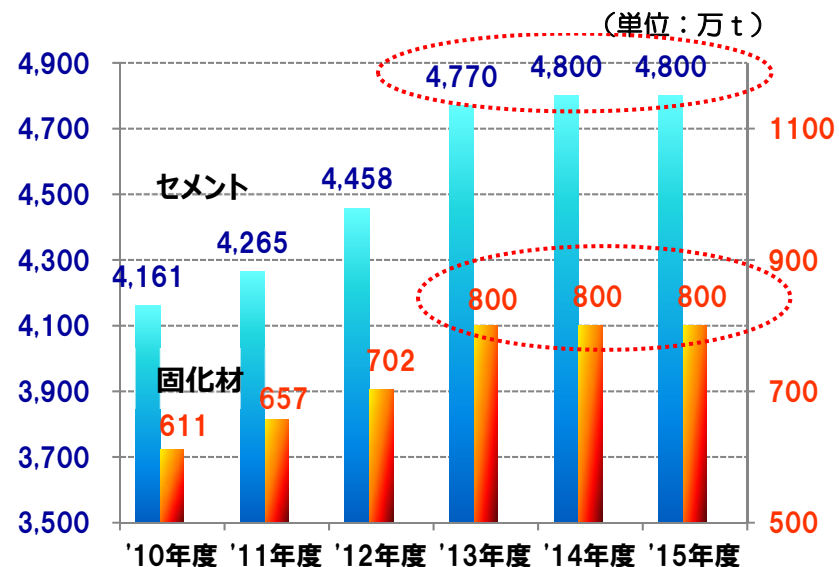
■石灰石、カルシア・マグネシア：石灰石チェーンの強みを発揮

- ・カルシア(No.1), マグネシア(Only 1)事業の強みを活かした石灰石資源事業の強化
- ・「金山台鉱区」を2017年出鉱目指し開発

■将来の内需減少への対応：継続的コストダウンとグループ収益力を強化

- ・苅田工場の排熱発電設備建設
- ・継続的なコストダウン・老朽化設備の選択更新
- ・宇部マテの完全子会社効果の早期発現

セメント・固化材 国内需要推移予想



17. 機械・金属成形



**製品とサービスの一体化の効果を追求し、
グローバル・ネットワークの最適活用により、
成長する海外市場での収益拡大を図る**

主力商品の納入実績

	成形機	産機	橋梁
国内	3,200台	3,700台	550橋
海外	4,000台	600台	—
合計	7,200台	4,300台	550橋

- ・成形機：ダイカストマシン、射出成形機、押出プレス
(対象市場世界シェア：20%)
- ・産機：縦型ミル、除塵装置、運搬機、クラッシャー、窯業機のみ
(国内シェア：30%)
- ・橋梁：架設都道府県数 41/47



- ・製・販・サの一体運営、顧客対応力強化 ⇒ 宇部興産機械(株)と宇部テクノエンジ(株)の合併
- ・ダイカストマシンの競争力強化
⇒ 東洋機械金属(株); TOYOとの資本業務提携 → 2社グループで世界No. 1に
- ・グローバル・ネットワークの積極展開
⇒ タイの独資化、メキシコ現地法人設立 → サービス収益拡大
- ・産機国内需要の取込み ⇒ 電力関連(IPP含む)・震災復興・老朽化更新へ注力
- ・グループ・ネットワークの連携強化 ⇒ 海外子会社、宇部スチール、福島製作所、ティーユーエレクトロニクス



・TOYOとの共同開発機:UB350iC

■ 石炭事業：需要増への対応

- ⇒新設石炭火力発電所の需要取り込み
- ⇒コールセンターコストダウンによる競争力アップ

■ 電力事業：復旧と競争力の確保

- ⇒停止中のIPP発電所を安定電源として再生（2014年度後半再稼働予定）
- ⇒ 2019年以降、自由電源となるIPPを収益源に（安定販売先確保）

■ 再生可能エネルギー事業の拡充

- ⇒メガソーラー発電所が2014年7月に営業運転開始（21.3MW）
- ⇒ PKS低温炭化等、バイオマス燃料供給事業の早期戦力化
- ⇒ IPPでのFIT発電収益の最大化



メガソーラー発電所
(14年7月営業運転開始)

**既存重点事業強化と、次世代に向けた研究開発テーマのバランスを取りながら、
選択と集中を行う**

1. 既存主力事業の強化

**顧客の要求に応える機能、コストを実現して事業基盤を支えると共に、
各事業のアプリ領域拡大に挑戦**

・合成ゴム

分子構造の制御技術により、タイヤの軽量化・低燃費材料開発を推進
Co触媒の特徴を活かした特殊化(ナノVCR、変性BR等)を推進

・ナイロン

押出用途は、PA6をベースとした改質、共重合技術による機能向上と用途拡大を推進
射出用途は、コンパウンド技術を追及、組成設計とVEによる高機能化、生産性向上を推進
CAE技術、材料技術の活用→新規部品の採用、金属接着等の成形加工技術開発の推進

・電池材料

顧客に定評のある開発力で先行優位性を維持しつつ、
高度化する顧客要求（民生:高電圧化、車載:低抵抗化）に対応
アジアを中心とする新たな市場も取込み積極化



・ポリイミドチェーン

フレキシブルデバイス、次世代回路基板材料の開発
BPDAの特徴を活かし、差別化した新規高機能ガス分離膜材料の開発
BPDAの革新的新規製法の開発

・ファインケミカル

C1ケミカルの新規製法・プロセス開発による大幅な生産性向上の推進
低・無溶剤環境対応型高機能のECOコーティング材料の開発

2. 成長期待事業の規模拡大

・航空宇宙分野（チラノ繊維）

次世代商用ジェットエンジン向け材料開発に注力
既存製造プロセスの生産性向上検討および次期生産プロセス開発

・機能性無機材料（窒化珪素 他）

窒化珪素は世界で唯一のイミド熱分解法を活かした高品質製品が武器
窒化珪素新規製法によるコストダウンでシェアを拡大

・新規機能性無機材料

宇部グループの無機材料技術者を結集し、研究開発体制を再編
蛍光体・MGOなど材料開発をスピードアップ



- ・'14年度…反転攻勢のスタート年として位置付け
⇒13年度は当初計画より100億円ほど落込んだが、
中計の方針は不変
- ・事業環境は引き続き厳しいが着実に手を打ち、早期に成果を
⇒市場環境を再認識、製販技のベクトルを合せ
化学部門を建て直す
- ・改善された財務体質の下、攻めの投資（含むM&A）も拡大

⇒再び成長軌道へ

